

11.26 学長・校議会

統一団交に結集せよ!

9・29日、我々が要求していた学長・校議会団交が当局の一方的破棄により実現しなかった。しかしそれ以後も、やはり団交といふものが改革にとって絶対必要な前提条件であるという確認は変わらず、団交を實現するために再度当局に要求しつづけてきた。最初当局は我々の要求に対して黙殺してきたが我々の大衆的な盛り上りを意識し出してから、次第に危うい姿勢を示してきた。それについての経緯は右曲折してきた。すなわち、数度も団交要求決起集会、学内デモ、ストライキ・etc.でもって大衆的に訴えてきたのであるが一方当局は一貫して我々の公明寛向状に打する11.6校議会声明、11.10付けの「全学への訴え」等に見られるごとく、我々の運動を強制的に圧殺しつづけてきているのである。特に、11.10声明に關しては、改革の姿勢を疑わせるような内容を多くもち、同時に我々団交を要求する団体に対して、ヒソカ中傷する内容を含み、強圧的弾圧を示したものである。そしてこの声明が我々が団交予備折衝をもっている最中に配布されたこと、そしてその声明を大衆団交に広げることと決定した同じ部局長会議で同時に決定されたということに打して、当局側の欺瞞性に我々は大きな終りも持ったのである。そして彼らのその反動性に対する徹底的な追求をやる上にも、団交實現が必要であり、今や予備折衝を通してそれに最大限取り組んでいるのである。

予備折衝は3度開いたが例のごとく当局の態度はひどい。まだ手を問題真が多く、意見の一致が無い状態である。しかし団交はあくまで徹底し、

大学当局への追求、全管理科崗の公明を勝ちとり、大学改革を實現化していくつもりである。

諸君、今も統一議長団へ参加する団体、クルアが指している。

院協

連絡先
 工学部 3B・5265室
 TEL 33380(内線)